

奄美大島から得られたシマチビキ *Pristipomoides zonatus*小枝圭太¹・前川隆則²・本村浩之¹¹ 〒 890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館² 〒 894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町 6-16 株式会社前川水産

■ はじめに

フエダイ科ヒメダイ属は背鰭条数が10棘11軟条であること、臀鰭条数が3棘8軟条であること、背鰭・臀鰭最後軟条が伸長すること、主上顎骨に鱗がないこと、背鰭に欠刻がないこと、胸鰭が長いこと、鋤骨および両顎に歯帯があること、側頭部の鱗域が、頬部・背鰭前方部・鰓蓋の鱗域と連続しないことなどの特徴をもつ (Allen, 1985; Akazaki and Iwatsuki, 1987). 本属には、日本からハナフエダイ *P. argyrogrammicus* (Valenciennes, 1832), キマダラヒメダイ *P. auricilla* (Jordan, Evermann and Tanaka, 1927), オオヒメ *P. filamentosus* (Valenciennes, 1830), キンメヒメダイ *P. flavipinnis* Shinohara, 1963, ナガサキフエダイ *P. multidentis* (Day, 1871), ヒメダイ *P. sieboldii* (Bleeker, 1854), バラヒメダイ *P. typus* Bleeker, 1852, およびシマチビキ *P. zonatus* (Valenciennes, 1830) の8種が知られている (島田, 2013).

シマチビキはこれまで国内において、小笠原諸島、北硫黄島、土佐湾、沖縄諸島以南の琉球列島、南大東島に生息するとされてきた (島田, 2013). 2015年2月17日に奄美大島沖で1個体のシマチビキが採集された。本標本は鹿児島県ならびに奄美群島における本種の標本に基づく初めての記録となるため、ここに報告する。

Koeda, K., T. Maekawa and H. Motomura. 2015. First record of *Pristipomoides zonatus* (Perciformes: Lutjanidae) from Amami-oshima island, Kagoshima, Japan. *Nature of Kagoshima* 41: 111-114.

✉ KK: the Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: hatampo@gmail.com).

■ 材料と方法

計数・計測部位は Shinohara (1963) に、方法は Hubbs and Lagler (1958) にしたがった。標準体長は体長と表記し、デジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった。シマチビキの生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された奄美大島産の1標本 (KAUM-I. 69723) のカラー写真に基づく。標本の作製、登録、撮影、固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り。KAUM - 鹿児島大学総合研究博物館; MUDF (現在は MUFS) - 宮崎大学農学部水産増殖学科。

■ 結果と考察

Pristipomoides zonatus (Valenciennes, 1830)

シマチビキ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 669723, 体長 349.5 mm, 尾叉長 384.5 mm, 鹿児島県奄美大島沖 (28°28'N, 129°28'E; 奄美市名瀬漁業協同組合にて購入), 2015年2月17日, 釣り, 前川隆則。

記載 背鰭棘数 10; 背鰭軟条数 11; 臀鰭棘条数 3; 臀鰭軟条数 8; 胸鰭軟条数 16; 左体側の有孔側線鱗数 64; 右体側の有孔側線鱗数 63; 背鰭起部下における側線上方鱗数 7; 側線下方鱗数 18; 背鰭前方鱗数 14; 側頭部鱗数: 6; 尾柄鱗数 28; 上枝鰓耙数 4 (3 が痕跡的); 下枝鰓耙数 14 (3 が痕跡的)。



Fig. 1. Fresh specimen of *Pristipomoides zonatus*. KAUM-I. 69723, 349.5 mm standard length, off Amami-oshima island, Kagoshima Prefecture, Japan.

体各部測定値の標準体長に対する割合 (%) : 体高 37.1 ; 頭長 34.7 ; 吻長 12.9 ; 上顎長 14.7 ; 両眼間隔 9.3 ; 眼径 7.4 ; 尾柄高 11.6 ; 胸鰭長 32.7 ; 腹鰭長 23.6 ; 眼窩前縁から眼窩骨前縁までの長さ 8.5 ; 背鰭最後軟条長 14.4 ; 臀鰭第 3 棘長 9.7 ; 背鰭最後軟条長 16.3.

体はやや長い楕円形でよく側扁し、体高は背鰭起部で最大。眼隅域はやや膨出し、眼前部はかなり膨出している。頭部背縁はゆるく丸くなっている。両鼻孔は大いに接近する。前鼻孔は皮弁を有し、後鼻孔は丸く開孔する。口裂は大きく、上顎後端は目の前縁直下を越える。両顎・鋤骨および口蓋骨に歯があるが、舌骨上にはない。両顎ともに、外側の 1 列の歯は犬歯状で大きく、上顎の前方には 1 対のやや大きな歯がある。内側の歯は絨毛状で、上顎では歯帯が後方に向かって細長く延びるが、下顎では前部の内側のみに歯帯を有する。鰓耙は細長く、第 1 鰓弓上枝上の前方 3 本および下枝上の前方 3 本は痕跡的。鰓蓋後縁は胸鰭起部より後方で、背鰭起部直下および腹鰭起部直上に位置する。前鰓蓋骨の後縁は微細な鋸歯状で、鰓蓋上縁は目の上縁に達する。側線は鰓蓋上方か

ら始まり、背縁と並行にゆるやかに湾曲したのち、背鰭第 9 棘起部直下から尾柄にかけて直走する。

胸鰭軟条は第 5 軟条が最長。胸鰭後端は背鰭第 3 軟条起部直下および総排泄孔直上に達するが、臀鰭起部には達しない。たまただ腹鰭の後端は背鰭第 2 軟条起部直下に達するが、総排泄孔には達しない。背鰭軟条は最後軟条が伸長して最長。背鰭に欠刻がない。背鰭基部後端は臀鰭基部後端の直上に位置する。臀鰭起部は背鰭第 3 軟条起部直下に位置し、最後軟条は伸長する。側線より上方・下方の鱗列は側線とほぼ平行に走る。側頭部に鱗をもち、その鱗域は頬部・背鰭前上方・鰓蓋の鱗域と連続しない。主上顎骨に鱗がない。

色彩 生鮮時の色彩—頭部と体側は緋色。体側には背部から体側中央やや下まで延びる黄色の横帯が 5 本斜めに走り、体色の緋色と縞模様を形成する。黄色横帯のうち 1, 4, 5 本目は、背部および尾柄部で左右体側のものが連続するが、2, 3 本目は側線上方の最上鱗列部で途切れるため、背鰭の黄色域と連続しない(4 本目のみ背鰭の黄色域と連続する)。各黄色横帯の幅はほぼ均一で、横帯同士の間隔は体側後部にいくにしたがい幅が

狭くなる。体側の緋色は腹側ほど淡くなる。上顎全体と下顎前部はオレンジ色。背鰭は黄色で、軟条部の軟条および鰭膜は先端から背鰭基底部の1/2-1/4の位置までが半透明の緋色を呈するが、最後軟条は黄色。臀鰭は一樣に薄緋色で、基底部がやや白い。胸鰭の鰭膜は半透明な緋色で、鰭条は半透明な黄色。胸鰭基部直上の無鱗域は黄色とオレンジ色。腹鰭は一樣に淡い緋色。尾鰭は上葉下葉ともに黄色で上下縁は緋色。上葉の後端から後縁の中央やや上方までは白色。後縁の中央部は淡い緋色。5本目の黄色横帯と尾鰭上葉の黄色域は連続するが、下葉の黄色域とは緋色で隔てられる。

分布 インド・太平洋に広く分布し、太平洋ではニューギニア南岸、オーストラリア西岸と北岸、およびツアモツ諸島以東を除く海域と日本、台湾、ハワイ、ガラパゴス諸島に分布する(篠原, 1966; Allen, 1985; 島田, 2013)。日本国内では、小笠原諸島、北琉黄島、土佐湾、沖縄諸島以南の琉球列島、南大東島(篠原, 1966; 島田, 2013)および鹿児島県奄美大島(本研究)から記録されている。

備考 奄美大島の標本は、背鰭棘条数が10棘11軟条であること、臀鰭棘条数が3棘8軟条であること、背鰭・臀鰭最後軟条が伸長すること、主上顎骨に鱗がないこと、背鰭に欠刻がないこと、鋤骨および両顎に歯帯があること、側頭部の鱗域が頬部・背鰭前部・鱗蓋の鱗域と連続しないことなどから、Allen (1985) や Akazaki and Iwatsuki (1987) によって定義された *Pristipomoides* 属と同定された。また、体側上半部に5本の黄色横帯が斜めに走っていること、体長は体高の約2.7倍であること、胸鰭後端が総排泄孔直上に達することなどが、篠原 (1966) および Allen (1985)、島田 (2013) が報告した *P. zonatus* の標徴とよく一致した。

Pristipomoides zonatus を日本から初めて報告したのは富山ほか (1958) であると考えられ、和名シマチビキが用いられている。彼らの報告は、標本には基づいておらず、新称とも記されていないものの、本種であると明確に判断できる絵が図示

され、その分布を高知と小笠原とした。琉球列島のフエダイ科魚類を整理した篠原 (1960) は、富山ほか (1958) の絵を転写するとともに、本種の形態的特徴を記載している。その後、篠原 (1966) は琉球列島産のフエダイ科魚類について分類学的な整理を行い、沖縄島糸満市で水揚げされた本種の写真とともに、2標本(体長290-310 mm)に基づくより詳細な形態に関する特徴を記載した。益田ほか (1975) と吉野 (1984) は、本種のカラー写真を図示し、その分布を伊豆諸島以南または南日本とそれぞれしているが、写真の基となった標本は同一で沖縄島産である(吉野哲夫氏、私信)。その後、Akazaki and Iwatsuki (1987) は、沖縄島産の1個体(MUDF 1845, 276.0 mm)を報告した。また、倉田ほか (1971) や Randall et al. (1997) は、小笠原諸島から本種を報告しているが、標本に基づくものか不明である。島田 (2013) は南大東島を本種の分布域としているが、これは南大東村誌編集委員会 (1990) で本種が漁業者への聞き込み調査により報告されたものに基づく。したがって、本報告の調査標本は、鹿児島県ならびに薩南諸島からの本種の標本に基づく初めての記録となる。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、吉野哲夫氏(元琉球大学)、島田和彦氏(元沖縄県農林水産部)、岩槻幸雄氏および三木涼平氏(宮崎大学)には文献の提供および過去の採集標本に関する有益な情報をいただいた。また、鹿児島大学博物館魚類分類学研究室の畑 晴陵氏には、文献の収集をはじめ、本原稿に対し適切な助言を数多く頂いた。これらの方々に謹んで感謝の意を表す。また、標本の作成・登録作業などを手伝ってくださった原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまに厚く御礼を申し上げる。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS研究奨励費(PD: 26-477)、JSPS 科 研 費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、JSPS アジア研究

教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」、総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティの向上プロジェクト」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費一地域貢献機能の充実－「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」、および鹿児島大学重点領域研究環境（生物多様性プロジェクト）学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- Akazaki, M. and Iwatsuki, Y. 1987. Classification of the lutjanid fish genus *Pristipomoides* (Percoidei). *Japanese Journal of Ichthyology*, 34 (3): 323–333.
- Allen, G. R. 1985. FAO species catalogue. Vol. 6. Snappers of the world. An annotated and illustrated catalogue of lutjanid species known to date. FAO Fisheries Synopsis, No. 6 (125): i–vi + 1–208.
- Hubbs, C. L. and Lagler, K. F. 1958. *Fishes of the Great Lakes region*. University of Michigan Press, Ann Arbor. xv + 213 pp., pls. 44.
- 倉田洋二, 三村哲夫, 草刈幸一. 1971. 小笠原諸島の魚類相と漁獲量の傾向. 小笠原諸島水産開発基礎調査報告 II. 東京都水産試験場出版物通刊, (216): 1–38.
- 益田 一, 荒賀忠一, 吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑, 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 379 pp.
- 南大東村誌編集委員会 (編). 1990. 南大東村誌 (改訂). 南大東村役場, 南大東. xx + 1230 pp., 29 pls.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Randall, J. E., Ida, H., Kato, K., Pyle, R. L. and Earle, J. L. 1997. Annotated checklist of the inshore fishes of the Ogasawara Islands. *National Science Museum Monographs*, 11: 1–74.
- 島田和彦. 2013. フェダイ科. Pp. 913–930, 2001–2004. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 篠原士郎. 1960. 琉球産フェダイ科魚類 (Lutjanidae) の研究 (2). 琉球大学理学部紀要 理学篇, 5: 22–38.
- Shinohara, S. 1963. Description of the new lutjanid fish of the genus *Pristipomoides* from the Ryukyu Islands. *Bulletin of Science and Engineering Division, University of Ryukyus. Mathematics and Natural Sciences*, (6): 49–53.
- 篠原士郎. 1966. 琉球産フェダイ科魚類の形態・分類ならびに分布に関する研究. 琉球大学理学部紀要 理学篇, 9: 179–301.
- 富山一郎, 阿部宗明, 時岡 隆. 1958. 原色動物大図鑑 (II). 北隆館, 東京. 392 pp.
- 吉野哲夫. 1984. シマチビキ. P. 162, pl. 153. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編). 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.